

第115回リニアドライブ技術委員会議事録（案）

日時：平成21年7月17日(金) 13:30～16:30

場所：JR東海 品川ビルA棟

出席者：委員長 脇若（信州大）

副委員長 北野（JR東海）

委員 小豆澤（東京都市大）、伊藤（日立製作所）、長谷川（岩松代理、鉄道総研）、
海老原（東横学園）、岡本（東海大）、荻田（JST）、花岡（東洋電機製造）、
森下（東芝）、樋口（長崎大）、平田（大阪大）、矢野（産総研）、渡辺（IEEJ）

幹事 村井（JR東海）、水野（信州大）

幹事補佐 鳥居（東京都市大）、矢島（SMC）（記）

オブザーバー 鈴木（福島高専）、佐藤（福島高専）

提出資料

- 115-1 第114回リニアドライブ技術委員会議事録案（矢島幹事補佐）
- 115-2 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）
- 115-3 第93回産業応用部門研究調査運営委員会議事録案（脇若委員長）
- 115-4 調査専門委員会・協同研究委員会設置状況（脇若委員長）
- 115-5 平成21年度 リニアドライブ技術委員会 活動報告（脇若委員長）
- 115-6 平成20年度 リニアドライブ研究会実績（村井幹事）
- 115-7 平成21・22年度 リニアドライブ関連各委員会 予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 115-8 委員会構成員変更届（矢野委員）
- 115-9 平成21年産業応用部門大会 大会プログラムと会場案（脇若委員長）
- 115-10 交通・電気鉄道 リニアドライブ 合同研究会（北野副委員長）
- 115-11 IPEC-Sapporo2010 Call for papers（脇若委員長）
- 115-12 第21回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム（SEAD21）会議報告（脇若委員長）
- 115-13 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 115-14 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会（MLV）活動報告（森下委員）
- 115-15 第1回 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会 議事録（矢野委員）
- 115-16 第2回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録（森下委員）
- 115-17 第4回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録（森下委員）

議事

1. 議事録確認

資料115-1を用いて議事録の確認が行われた。以下の点を修正することで承認された。

- (1) 誤記修正：2.4内、「MCD委」→「ECD委」、3.3(2)i内「EL委」→「MEL委」、5.内「資料114-13~114-4」→「資料114-12~114-3」
- (2) 3.3(1)内、「(ECD委)：設置予定」→「(ECD委)：設置済み」
- (3) 3.3(2)内、「超伝導の技術報告書（2件はキャンセル）」→「SLD委の技術報告書（2件）は提出しなくてよいよう手続きを行う」
- (4) 3.7(3)内、「ECD協賛とMDD協賛を同時に行う」→「ECD協賛とMDD協賛を同時に行っても良い」
- (5) 4.1内、「外国からの投稿に対し~投稿数を増やすため」→「積極的に投稿を呼びかけた」

2. 名簿の確認

2.1 資料115-2を基に委員名簿の確認を行った。

3. 報告事項

3.1 資料115-3を用いて、脇若委員長から第93回産業応用部門研究調査運営委員会（6月5日）の内容に関して以下の報告があった。

- (1) 各技術委員会から発言があり、かなり発言しやすい雰囲気になった
- (2) モータドライブ技術準備委員会が新たに設置される。SPC（半導体）技委からインバータとモータを分ける経緯。回転機技委、リニアドライブ技委と範囲が重複しても可
- (3) 産業応用部門研究調査運営委員会 清水委員長からの抱負が説明された

3.2 資料115-4を基に、脇若委員長から調査専門委員会・協同研究委員会の技術報告書の状況について

説明があった。

- (1) SLD 委の技術報告書は調査期間から時間が経ってしまっており提出を取りやめる
- (2) MLV 委：6月に出版された
- (3) NAD 委：学会に提出済み，来月発刊予定

3.3 資料 115-5 を基に，脇若委員長から平成 21 年度 LD 技術委員会活動報告について説明があった。以下の予定。

- (1) 東北新幹線見学会 7/22 開催
- ¹(1) 交通博物館 (10/23 or 12/11)
- ²(2) HSST (広島) 交渉中

3.4 資料 115-7 を基に，研究会，調査専門委員会の開催日および関連会合の確認が行われた。

- (1) 10/20 LD 研究会 (東京) ECD 協賛
- (2) 10/26・27 LD 研究会 (東京) (MDD 協賛)
- (3) 1/28・29 LD 研究会 (東京) (MEL 協賛)・・・1月下旬に回転機の大きな研究会があり，LD 研究会の開催をなるべく避けたほうがよいとの意見がだされた。

3.5 資料 115-8 を基に，矢野委員会から MDD 委の追加委員について報告があった。

3.6 資料 115-9 を基に，9月に開催される平成 21 年産業応用部門大会で「医用アクチュエーション技術の最先端」(ECD 委)と「産業用リニア電磁駆動システムの要素技術とその応用」(MEL 委)のシンポジウムを行う報告があった。

3.7 資料 115-10 を基に，北野副委員長から交通・電気鉄道 リニアドライブ 合同研究会 (7月 21 日 22 日 八戸市) について開催案内があった。

3.8 資料 115-11 を基に，脇若委員長から IPEC-Sapporo2010 (2010 年 6 月 21-24 日 札幌) の call for papers について案内があった。

3.9 資料 115-12 を基に，脇若委員長から 5 月 20-22 日に長野で開催された第 21 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム (SEAD21) の会議報告があった。

4. 審議事項

4.1 LDIA2009 (韓国) に対する LD 技委の取り組みが検討された。LDIA 管理委員会は前回同様の協力を考えている」ことが確認された。また，日本の電気学会へ LDIA 管理委員会を通して投稿するよう勧める。審査の基準 (英訳) を事前の会議で脇若委員長が資料として International Steering Committee に持って行くことが提案された。さらに，LDIA 管理委員会がサポートする件数を 10 件 (仮) までとあらかじめ伝える。

4.2 研究発表を活性化するため，LD 研究会での発表件数をカウントし，資料 115-6 を基に村井幹事から説明があった。大阪大学の発表が 14 件と最多。大学の発表が 87%でほとんどを占める。研究会を活性化させるため，以下の意見が出された。

- (1) 発表会場近くの企業を誘ったほうがよい (海老原委員)
- (2) 長野で開催したときには山梨の会社に招待講演を依頼し，いい発表だった (脇若委員長)
- (3) 調査専門委員会に参画している企業の方に参加していただく (平田委員)
- (4) 研究会で何をやっているかわかりにくく，電気学会 HP でもわかりにくい。関係企業にメールなどを送るなどすればよい (矢島幹事補佐)
- (5) 研究会資料の定期購読者や調査専門委員会の委員に案内を出す (海老原委員)

4.3 上記 3.6 において，リニアドライブの研究発表を活性化するため，意見が出された。

- (1) リニアドライブ・磁気浮上を発表するセッション名が「S3-4 特殊電機」となり，とうとうセッション名から「リニアドライブ」「磁気浮上」がなくなった (小豆澤委員)
- (2) まず研究会に発表してもらって，それから全国大会でも発表してもらいたい (脇若委員長)
- (3) スケジュールを立てて，どこに何件出すか目標 (目安)，計画を立てればよい (小豆澤委員)
- (4) 全国大会にリニアドライブ関係の発表するよう依頼する (脇若委員長)
- (5) 発表するために，全国大会の日付・場所などのスケジュールを早く出して欲しい (鈴木オグザン)
- (6) リニアドライブだけでも早く対応したい (脇若委員長)
- (7) 委員長が今回の件を考えて，案を出して欲しい (荻田委員)
- (8) 非接触給電などの新しい分野が出てきている。リニアドライブの研究発表は 10 年ちょっと前がピークだった。それ以降，実際にリニアドライブが使われているのだから，大学から発表してもらうだけではなく，そういったものをすくいあげて発表してもらうやり方も必要 (荻田委員)
- (9) 荻田委員が調べたトレンドを研究会などで発表して欲しい (北野副委員長，海老原委員)。研究

会で発表できるか分からないが、調専委などで発表したいと考えている（荻田委員）。

5. 各調査専門委員会活動報告

資料 115-13～115-17 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

6. 授賞式

平成 20 年度電気学会優秀論文発表賞の授賞式が行われた。本部表彰として、村松雅理君（大阪大）、山本晃弘君（京都大）が表彰され、部門表彰として、佐藤健生君（福島高専）、板坂直樹君（武蔵工大）が表彰された。出席した表彰者から感想と今後の抱負が述べられた。欠席者には後日郵送の予定。

以上